剣道だより

No.１８２
三木市剣道連盟
広　報　部

５月～７月号
平成30(2018)年
８月１０日（金）発行

○別所公春祭り共催剣道大会結果（１・２面）

○第112回三木市級位認定審査会（３面）

○第64回三木市中学校総合体育大会剣道の部(４面)

◎本紙は三木市剣連HP(http://mikikenren2011.web.fc2.com/)でもご覧になれます。PDFでカラー印刷できます。

別所公を偲ぶ 剣道大会に百十一名参加

五月五日　別所公春祭り共催剣道大会

平成30年5月5日(土・祝)、恒例の別所公春祭り共催剣道大会が、三木市民体育館で開催され、市内の少年少女剣士１１１名が、小学生から高校生の個人戦計８部に分かれて４試合場で勝敗を競った。

さわやかな天候の元、朝８時30分から約１時間合同稽古で軽く汗を流し、９時30分より開会式が行われた。

来賓に三木市長仲田一彦、教育長西本則彦、体育協会長井上要二各氏が選手を激励。井上体協会長は、全日本水泳連盟会長の言葉を引用し、「スポーツの条件は『礼節、責任感、健康』の３つ。剣道をはじめとする武道は、この３つが兼ね備わった素晴らしいもの。長く続けてください」との言葉をかけた。続いて神澤正輝三木市剣道連盟会長は、先の八段昇段審査で、同じ東播地域で八段合格を果たした高砂市の鈴木康民先生が、９年間毎日欠かさず早朝練習されていることの偉大さを紹介し、「こつこつと目標に向かって努力することが大切」と選手たちに説いた。

続いて、三木少年剣修会主将山田慧士(６年生)君が「感謝の心を忘れず全力で戦うことを誓います」と力強く宣誓し拍手を浴びた。

さらに、開会式後、大柴敏昭新七段に連盟より記念品が贈られた。

試合は、４試合場で小学生から高校生までの男女各８部に分かれて行われ、白熱した熱戦に保護者らの歓声が体育館に響いていた。

剣道大会各部入賞者は次頁。

（報告　澤田薫）

別所公春祭りとは

戦国時代、三木の地を治めていた別所氏は、織田信長の命を受けて中国毛利攻めの軍を進めてきた羽柴秀吉の大軍と交戦し、１年10ヵ月にわたって激しく戦いました。三木城は、堅固で、良将がいる上に城兵の士気も高く、難攻不落の城でした。

しかし、「兵糧攻め」という秀吉の奇策にあい、当時の城主であった別所長治公は、飢えに苦しむ城兵や領民の姿を見るに忍びず、城兵の助命と領民の安全を第一義とし、自らの命を引き換えにすることを決意し、天正８年(１５８０年)正月17日、

今はただ　恨みもあらじ
諸人(もろびと)の
命にかわる我が身と思えば

との辞世の句を残し、一族と共に自決して開城しました。

この長治公の遺志は、羽柴秀吉に感銘を与え、城兵と領民は許されると同時に、租税免除などの善政が行われたので、めざましく復興し、その後三木市発展の大きな礎となりました。

「別所公春まつり」は、この長治公を偲び三木市の大恩人として後世に長く語り継ぐために開催しています。別所公辞世の句が刻まれた歌碑前での歌碑祭、剣道をはじめ各種武道大会、武者行列、お茶会、子ども縁日も開催されています。